

まちの情景と建築

田中 修一

リゾート

地中海の楽園 コートダジュール/リヴィエラ



ヨーロッパの緯度は日本よりも遥かに北に寄っている。ロンドン、アムステルダム、ベルリンなどは北緯52度付近なので、日本だと北海道を超えて樺太になってしまう。我々の感覚からすると北緯40度線は秋田・盛岡のやや上を走っているの立派な北国なのだが、これをヨーロッパに辿ると、トルコのイスタンブール、イタリアのナポリ、スペインのマドリッドなど地中海の中央部に当たる。温暖な理由は地球の自転による偏西風の影響を受けて、太陽がさんさんと輝く地中海性気候になるからだが、日照時間の少ない北欧の人たちは太陽に恋する。ここがヨーロッパ人の憧れのリゾート地だ。なかでも紺碧海岸と謳われる最高の場所がコートダジュールである。



▲ モナコ王宮玄関



▲ モナコ中心街

イタリアとフランスの国境にモナコ公国がある。バラエティーに富んだ食事や観劇のほかに、カジノ、舟遊び、グランプリレースと、金さえあればどんな豪華な企画でも楽しむことができる。沖には10万トン級のクルーザーが(1隻ではない)停泊しており、世の中にそれほどお金持ちが沢山いるのかと不思議に思ってしまう。ここから西のニース、カンヌを経由してトゥーロン(マルセイユの手前)までをコートダジュール、東のイタリア沿岸をリヴィエラ海岸と慣例的に分けて呼ぶこともある。



◀ ニースの朝焼け(にわか雨の後、朝日に光る半島の絶景)

温暖な気候と美しい海は、単に遊び場であるだけでなく芸術の揺りかごでもある。ニースのイギリス通り、カンヌの映画祭のほか、アルルなどプロヴァンス地方は画家の制作意欲を掻き立てる。ゴッホやピカソの活躍の場でもあった。但し雨が非常に少ない地域で、フランスの悩みは乾燥摩擦による大規模な山火事が毎年のように頻繁に起きることだ。黒焦げの樹林を見ると森林保全の難しさを実感する。